



東俣野特別支援学校

電話 045-851-9631

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/ss/higashimatano/>


「伝える喜び、受け取る喜び」を

～ IDDブックの取り組み ～

学校長 仲程 剛

新しい元号がスタートして、もうすぐひと月になります。学校の業務を始め、私の身近なところでは、改元による混乱は心配したほどはなく、ほっとしております。

4月号では、今年度の東俣野特別支援学校では「ふれあい」をキーワードにしたいということをお伝えしました。

人と人との「ふれあい」や「かかわりあい」の中心は、コミュニケーションです。自分の意思や想い、もっている知識や情報を相手に伝えること、逆に相手の想いや相手からの情報を受け取ることで、お互いに相手のことを分かりあい、それをもとに「ふれあう」ことになります。

それだからこそ、学校は子どもたちの「自分の伝えたいことをしっかり発信する、相手の伝えたいことをしっかりと受け止める」力を育む場でもあります。

ところで、本校のPTAでは、「IDDブック」というものを作成しています。

IDDブックとは「子どもたちのサインを周囲の人々に伝えたい」という保護者の思いから、「いつでも(I)どこでも(D)誰にでも(D)」というコンセプトで作ったツールです。

本校の子どもたちが地域に出た時に、たとえその時に初めて出会ったという方と会っても、このIDDブックがあれば、その方々が本校の子どもたちとふれあうのに役立ちます。

IDDブック

この本は、ほく・わたしが持っている「サイン」の通訳本です。

ほく・わたし の言葉や気持ちが いつでも・どこでも・誰にでも 伝われば、

もっともっと楽しく自分らしい生活が送れるはず！ そうなっていくことが、ほく・わたしの願いです。

(『IDDブック』表紙より抜粋)

IDDブックの取り組みは、子どもたちが地域に出た時に、子どもたちが自分の伝えたい事を分かってもらう助けになります。これは、子どもたちが地域・社会の中で暮らすのに役立ちます。同時に、はじめに述べたように、子ども達自身の「伝える力や受け止める力」を引き出すことも必要であり、その力がつくことでも、子どもたちの生活は大きく広がります。

学校の職員は、その両方を意識していかなければいけません。いずれにしても、大事なのは子どもたちが「伝える喜び、受け取る喜び」を味わうことだと思います。そしてそのためにも教職員自身の「伝える力、受け取る力」を磨く必要もあります。

学校での子ども達の成長が、保護者や関係する方々と共有され、それが次のIDDブックに生かされていくといいですね。